

山陽新聞 創刊145年

次代担う人づくり 吉備の環プロジェクト

山陽新聞社は、地域の魅力創出や課題解決を目指す「吉備の環プロジェクト」を展開し、まちづくりや食品ロス削減、里海の保全といった活動に光を当てながら後押しもしてきた。とり

わけ中高生や大学生といった若い世代の取り組みに注目。柔軟な発想や旺盛な行動力で未来を切り開いてほしいとの期待を込めてきた。社会で活躍する人材を育成するN I B（ビジネスに

新聞を）の研修は10年目に入った。社会人や学生らに文章構成や表現のスキルなど新聞社ならではのノウハウを提供。地域活性化をけん引する人づくりの一端を担っている。



食品ロス削減 連続シンポ登壇
山陽学園大 金塚 優輝さん

出会い財産 パティシエへ

ドライフルーツの切れ端やラベルが傷んだジャムは規格外品になってしまった。このまじ捨てられるの。山陽学園大地域マサメ・トキ部4年 金塚優輝さん(20)は2023年春、商品開発実習で訪れた倉敷市の菓子工房で食品ロスの実情を目の当たりにした。多量に発生し、傷あり。食べられるのにむねなく使わない食材の量は、家庭と段違いの規模だった。切れ端やジャムは1月かけて焼き菓子やクッキーに生まれ変わらせた。商品化は見送られたが、評価は上々。何より、社会課題を解決するビジネスの可能性を探れたことが自信になった。一連の経験は今年4月中旬、「食品ロス削減」をテーマに岡山市で開催された山陽新聞社連続開催する「SDGs×吉備の環シンポジウム」で披露。若者がSNS(交流サイト)を駆使しながら余った食材の活用・PRに携わる独自のビジネスモデルも紹介した。地域に貢献するパティシエに。幼い頃から洋菓子職人になる夢を追っていた。コック帽をかぶって1年生としてくれた西洋人のおじさまに憧れたのは5歳の時。家では家族と一緒にケーキに果物やクリームを飾った。小学4年生から料理教室に通い、クリスマスプレパレーションにクインボールをたたく

魅力創出や課題解決後押し



倉敷市の菓子工房実習に臨み、ドライフルーツの切れ端やラベルが傷んだジャムを規格外品として生手実装させた。2023年10月

卒業後は専門学校で技術を磨こうと考えた高校時代、新型コロナウイルス禍が食業界をのみ込み、スイーツ店の閉店も目にした。作りたいでなく、売る戦略も必要と気づき、大学で経営学専攻(2)にした。4年間は少し通りがかなと思っただけ、得たものはなくない。工房での実習と経営の観点から考えたビジネスモデルは、岡山インペリアルコンテスト2023で入賞。連続シンポでは、経歴や考えをまとめ、人前で話す力が養われ「一緒に登壇した人たちの出会いが最大の財産になった」という。中でも、真庭市で採れた規格外野菜を加工し、商品化する事業を通じ、加工を担う高齢者の生きがい創出を図る事業者の取り組みに感銘を受けた。人や場所を特定しないSNS空間でビジネスを展開する自らのモデルと異なり、「地域に根差す」という視点に大切な学びがある。と直感。卒業論文で取り上げようとした。今年9月には取材に訪れた。シンポの発表後、倉敷市の事業者からは「ロスになる野菜を使う方法を考え」と依頼も受けた。就職は岡山市を拠点にカフェなどを全国展開する外食チェーンに内定。パティシエになる夢への一歩を踏み出せそうだ。まずは最前線の店舗で消費者のニーズや動向を肌で感じ取るのだろうか。将来を想像しながら胸を膨らませている。「いつかは土地の食材を使い、地域の魅力を引き出せる商品を開発したい」(金塚正樹)

海ごみ問題 若い世代 深い学びに



街中でごみを拾い集める倉敷市立福田中の生徒=7月

山陽新聞社は2021年8月、「吉備の環プロジェクト」をスタートし、エリアの皆さんと連携しながら持続可能な地域づくりを進めている。次代を担う人材の育成につなげたいとの思いから、各活動で若者の参加を求め、対話してきた。瀬戸内海のごみ問題解決を目指す吉備の環アクション「里海 未来へ」では23年度、ともに活動する団体を地域から公募。多くの学校の参加を得た。

倉敷市立福田中は生徒がゲーム感覚で回収するごみの量を競う大会などを企画。本年度も7月に第2回大会を開いた。参加した3年岸本幸樹さん(14)は「活動で初めて海ごみ問題の深刻さを知った。若い世代が危機感を持って行動したい」と訴える。岡山科学技術専門学校(岡山市)も参加校。23年度は生徒が水路に網を設置し、海へのごみ流出を防ぐ社会実験を3週間実施した。本年度、期間を拡大して継続している。指導する大隈英治講師は「現場で汗を流しながら、環境問題を肌で感じ、深い学び



「Doan's」海のごみ問題シンポジウム
活動報告を高校生6月、岡山市

につながっている」と話す。今年開始した「SDGs×吉備の環シンポジウム」でも毎回、高校生や大学生が登壇して活動を発表。これまで食品ロス削減や海の恵みの活用などをテーマに3回開催した。大人とともに地域が抱える課題の解決策を探っている。(藤岡慎吾)



吉備の環プロジェクト X公式アカウント